

教科書 p28

「ぴったりの言葉、
見つけよう1」

めあて

心が動いたときのことを思い出し、そのときの
思い出を書くためのじゅんぴをしよう。

☆ 教科書29ページの例文を読んで、どんな文章を書くのかをつかみましょう。

☆ これまでの体験の中から、次のような気持ちになったできごとを思い出してみよう。

例…家族で海に旅行に行ったこと など

※ とくに思い当たることがないところには、無理に書かなくてかまいません。

○ 楽しかったこと

--

○ うれしかったこと

--

○ 悲しかったこと

--

○ その他、心のこっていること

--

☆ その中から、文章に書きたいことを一つえらんで、上の○に色をぬりましょう。

☆ えらんだ体験の中で、特に強く心のこっている場面と、その時の気持ちを書き出しましょう。

○ 特に心に強くのこっている場面

例…みんなで海岸でバーベキューをしたこと、海でボートに乗って沖へ出たこと、など

--

○ その時の気持ち

例…肉がとってもおいしかった、潮風がとても気持ちよかった など

--

教科書 p305

「漢字の広場①」

漢字の部首 1」

めあて

部首のはたらきについて知りましょう。

☆ 次の漢字の共通している部分を赤でかこみ、何に関係のある漢字か（ ）に書きましょう。

○ 星 晴 明 （ ）

○ 柱 植 根 （ ）

☆ 漢字のなかま分けの仕方について、教科書30ページを見て、（ ）に当てはまる言葉を書きましょう。

漢字を主に（ ）のうえでなかま分けするとき、目印とする部分を

（ ）といえます。ふつう、（ ）（ ）（ ）（ ）（ ）（ ）

（ ）などの部分が部首として用いられています。

部首と漢字の意味には、深いつながりがあります。

☆ □の中の漢字を手がかりにして、次の部首の意味を考えて、（ ）に書きましょう。

また、教科書の巻末の『漢字を学ぼう』などを使って、同じ部首をもつ漢字を三つ探しましょう。

人 ひと にんべん 作 体 億 （ ）に関するもの

同じ部首をもつ漢字 【

水 みず さんずい 波 浴 氷 （ ）に関するもの

同じ部首をもつ漢字 【

力 ちから 加 動 努 （ ）に関するもの

同じ部首をもつ漢字 【

教科書 p305

「漢字の広場①」

漢字の部首 2

めあて

漢字を見て、部首が何かを考えたり、

同じ部首の漢字を集めたりしましょう。

☆ 教科書31ページを見て、次の漢字の部首の名前を答えましょう。また、教科書にある漢字を部首ごとに分けてみましょう。

部首	部首の名前	その部首をもつ漢字
頁		
雨		
攴		
艹		
广		

部首	部首の名前	その部首をもつ漢字
山		
宀		
女		
口		
刀		

☆ 巻末『漢字を学ぼう』を使って、同じ部首の漢字を集めましょう。(二つ以上見つけよう。)

部首	部首の名前	その部首をもつ漢字
言	いう ごんべん	
糸	いと いとへん	
手	て てへん	
竹	たけ たけかんむり	
心	こころ	
辶	しんにょう	

教科書 p32

「三年生で学んだ

漢字①」

めあて

三年生で学んだ漢字を正しく使って、

絵に表されていることがらを、短い文で書きましょう。

☆ 教科書にある漢字の言葉を、声に出して読みましょう。

読み方や、意味が分からない字は、おうちの人に聞いたり、辞書を引いたりして調べましょう。

☆ 絵の中の言葉や、一線の漢字を使って、町の様子を文章で表しましょう。

一つの文の中に、二つ以上の言葉を使えるといいですね。

※文を作るときには、必ず『主語』を入れて書きましょう。

主語とは、その動作をする人やものを表す言葉です。

多くの場合は、「○○が」「や」「○○は」といった形で書かれます。

(例 風が吹く。

あの花は美しい。)

○ 使う言葉

その言葉を使って、文を書きましょう。

○ 使う言葉

その言葉を使って、文を書きましょう。

☆ 書いた文章を、声に出して読んで確かめましょう。

教科書 p34

「ぞうの重さを量る」

めあて

実験の結果と結論のつながりに気をつけて
読みましよう。

☆ 教科書34・35ページ「ぞうの重さを量る」を声に出して2回読みましよう。

☆ 本文三行目、王様が思った、『同じこと』とは、どんなことですか。書きましよう。

☆ ぞうの重さを量ることができなかった理由は何ですか。書きましよう。

☆ 順序を表す言葉に気を付けて、曹沖そうちゆうが考えた、ぞうの重さを量る方法をまとめましよう。

手順③		手順②		手順①	
最後に、		ぞうが		まず、	
石の重さを合計すると、ぞうの重さが分かる。				重さで	
				次に、	